子どもの食緊急支援プロジェクト関係者の皆さま、ならびに本プロジェクトを通じ、心温まるご支援をいただきました皆さま、この度は本当にありがとうございました。

今次のコロナ禍において、食のアウトリーチ支援を展開してまいりました北は北海道から南は沖縄まで全国７５ヶ所の児童家庭支援センターを代表し、衷心より御礼申し上げます。

さて皆さまから戴きました大切な浄財は、お弁当やおやつ、子ども食堂（フードパントリー）等の食材となって、様々な困難や生き辛さを抱えている子どもやそのご家庭に確りと届けられ、子ども達の笑顔と元気の源になったことを、ここに謹んでご報告させていただきます。

また face to face（顔の見える関係）を基調とした食支援を通し、あらためて人と人との心の繋がりを確かめ合い、絆を紡ぎ合うことができたことも重ねてご報告申し上げます。

さらに一部の地域では、児童家庭支援センターのケースワーカーと、民生委員や地域自治組織の役員、子ども食堂のボランティアスタッフ等との連携や相互理解が深まるなど、支援者同士の関係性が強化されたとの成果報告も受けています。このような地域コミュニティにおける支援者同士のネットワーク構築は、今後必ずや児童虐待や子どもの貧困問題の早期発見・対応に役立つものと確信しています。

これからも児童家庭支援センターは、地域に密着したファミリーソーシャルワーク機関としてチェンジメーカー的機能を発揮し、支援を必要とする子どもたちのために邁進していく所存ですので、引き続きましてのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

皆さまからのご厚情に感謝申し上げるとともに、皆さまのご健康とご多幸をお祈りし、御礼のご挨拶とさせていただきます。

令和２年７月 22 日

全国児童家庭支援センター協議会
会長　　橋本 達昌